

知的事例2 新規利用者のサービス導入のあり方を考える事例

事例概要

近藤健一様（仮名）18歳男性

知的障害があり、療育手帳の等級はAの1。その他、両下肢軽度機能障害等もあり、身体障害者手帳の等級は2種5級である。

健一さんの家庭は、父親、母親、本人の3人家族で、本人の面倒は主に母親（専業主婦）がみている。休日は父親も協力してくれるものの、仕事が忙しく、土日にも出勤することが多い。

本人は、平成28年3月に『すぎな特別支援学校高等部』を卒業し、現在は自宅でのんびり過ごしている。

特別支援学校在学時は木工班に所属し、木工製品のヤスリがけを行っていた。興味のあるものには集中を持続できるが、自分の嫌なことがあると物を投げたり、(女性の先生が対応した時は)洋服を脱ぎ出すこともあった。

身辺面は全般的に介助が必要で、特に食事では、口にたくさん詰め込んでしまい嘔吐することがある。コミュニケーションの面では、「おはよう」等の簡単な言葉は発言でき、簡単な単語はある程度理解している様子が見える。

相談のきっかけは、自宅近くにある生活介護事業所『みんなのホーム』に、「特別支援学校で仲の良かった友達が楽しく通っている」という情報を母親が得て、「健一も『みんなのホーム』に通わせたい」との希望が出たことによる。

『みんなのホーム』での受け入れ前に、健一さんの利用が適当か否か、3日間試験的に受け入れを行い、資源回収の作業や木工製品の仕上げを主に行った。木工製品の仕上げ作業は慣れているのか上手であり、集中して取り組んでいた。

環境に慣れていないこともあると思われるが、母親は、知り合いの同級生もいるため、ここの活動を強く希望している。

ポイント

- ① 障害福祉サービスを初めて利用する方のケース。
（特別支援学校卒業後、自宅で生活していたが限界が生じてきたため、福祉サービスの利用を考えている。）
- ② 家族も福祉制度がよく分からず不安を感じている筈なので、まずは丁寧に説明する必要がある、サービス等利用計画作成までの流れをきちんと理解していただくことが大切である。
また、新規利用の場合は、アセスメントをしっかり取ることが特に重要になってくる。
- ③ ご本人は、興味のあることや慣れている作業等は落ち着いて取り組むことができるが、自分の嫌なことや思い通りにいかないことがあると、物を投げたり、他人を叩く等の行為が見られる。
しかし、問題ばかりに目を向けず、強みの部分をしっかり押さえることが重要である。
（休日に家族と出かけた時には、ご本人が楽しそうに買物をする様子が見える等）
- ④ 一つの事業所だけではニーズや課題に対応するのが難しい面もあるので、関係機関と連携して支援していくことがポイントとなる。
- ⑤ この事例のサービス等利用計画では、自宅での生活、事業所での活動、家族の介護負担の軽減等を踏まえて、居宅介護、生活介護、短期入所、移動支援のサービスを組み込んで作成しているが、単にサービスを組み合わせるだけでなく、「どのように活用するか」も重要である。